

からみ織技法による創作帯地製品化支援

【開発の背景】

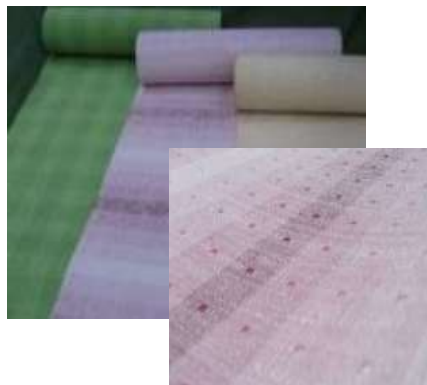


図1 ひだ織帯地「tsumugi-dots」

結城紬の製造卸問屋である「縞屋」では、伝統的な結城紬の他に、新たな技法や素材を取り入れた製品の開発に取り組んでおり、これまでも当所で支援したひだ織帯地「tsumugi-dots」（図1）などを製品化しています。

今回、新たに「からみ織」の技法を用いた帯地を製品化、シリーズ展開していきたいとの要望があり、その開発に必要な製織技術や組み合わせる新たな素材についての技術相談を受けました。

【開発の経緯・支援内容】



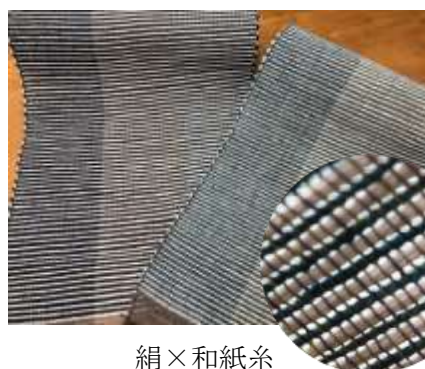
図2 綜統仕掛け

からみ織は、織物のたて糸同士を左右に絡み合わせて製織していくことで、生地空間をつくり、透け感や独特の生地風合いを表現させる技法です。

たて糸を絡み合わせるには、綜統（織機で経糸（たていと）を上下に開きわけ、織物の組織や模様に合わせて緯糸（よこいと）が通る隙間をつくる装置）の部分に特殊な仕掛け（図2）が必要となることから、当所では、綜統仕掛けの仕組みや仕掛けの違いによる絡み方の違いなどを説明し、サンプル製織の指導や訪問による現地での指導を行いました。また新たな素材として和紙糸の組み合わせについて提案・助言を行い、製品化の支援を行いました。

【開発した製品の紹介】

縞屋では、配色や素材、たて糸のからみ条件などバリエーションを工夫しながら、製品化に取り組んでおり、現在、新たな帯地シリーズとして展開し販売されています。



絹×和紙糸



絹×麻

図3 製品化した創作帯地

価格：380,000円～

問合せ先：縞屋

TEL 0285-49-1490

基礎となった事業

令和2年度 試験研究指導費（技術相談）

現在の担当グループ

繊維・紬G

グループ長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

主任研究員

中野 睦子